

DriveNets、同社のネットワーククラウドの成長する勢いをサポートするためにアジア太平洋地域での事業を拡大

DriveNets のネットワーククラウドが市場における先進的な高スケールの分離・分散型ネットワークングソリューションとなる中、強力なベテラン業界リーダーチームが同社に参画することになりました。

イスラエル・ラーナナ発、2021年7月8日。ネットワークングソフトウェア企業の DriveNets は本日、DriveNets ネットワーククラウドでの通信サービスおよびクラウドプロバイダからの関心の高まりに対応するために、アジア太平洋地域での事業を拡大していくことを発表しました。DriveNets は同地域の革新的通信サービスおよびクラウドプロバイダーと協力するために Cisco や Juniper からの上級経営者を含め、極めて経験豊かな技術販売および事業の専門家を採用しました。新チームの中には、ラルフ・カンディロロ - DriveNets アジア太平洋地域上級副社長（元 Juniper の上級副社長、元 Tellabs での副社長）、そして井上雅雄 - DriveNets Japan 社長（元シスコシステムズ GK 副社長、元日本アルカテル・ルーセント取締役副社長）の就任を含んでいます。

先行成功している米国市場に続き、ルータのホワイトボックス化をはじめとした DriveNets ネットワーククラウドのビジョンに対する勢いは、アジア太平洋地域でも急激に高まっており、既に 20 社程度との営業活動が進行中です。通信サービスプロバイダやウェブスケーラーからの世界的な関心は、オープンで分離・分散型ネットワークモデルの採用要求が高まっています。

「DriveNets は明確なビジョンを持つサービスおよびクラウドプロバイダ企業顧客のネットワーク変革や経済化をクラウドやモバイルの世界で加速させるお手伝いができることを大変楽しみにしております。近年の通信インフラプロジェクト (TIP) の要求仕様書 (RFI) でも、市場の分離・分散型ネットワークングに対する需要の高まりを示しており、当社は、アジア太平洋地域でのその勢いに注目しています。」と DriveNets の CEO で共同創設者であるイド・スーザン氏は述べていました。「DriveNets のアジア太平洋地域での適切なチームがいる事で、ビジネスモデルの変革、革新的新サービス創出、また、新たなレベルの規模で事業者の発展をドライブしてまいります。」

アジア太平洋地域チームは日本、インド、東南アジア、中国、オーストラリア、およびニュージーランドに特に重点を置き、DriveNets がより強力な事業基盤で地域の顧客、また、DriveNets ネットワーククラウド展開のフルライフサイクル管理を共に行うパートナーへのフルサポートを確実に行えるようにしていきます。秋には東京にオフィスを開設する予定です。

「当社では今後5年間にわたり、高スケールで、通信企業レベルのインフラの半数が分離・分散型ルーターに移行すると予想しています。」と650 Group 技術アナリストのアラン・ウェッケル氏は述べていました。「DriveNets ネットワーククラウドはこの移行における主要リーダーです。アジア太平洋地域の通信企業は、この地域が分離・分散型ルーターの最大の消費地域の1つになるため、大きなメリットを受けることとなります。」

DriveNets について

DriveNets はクラウドなどのネットワーク構築する急成長ソフトウェア企業です。同社は、通信サービスプロバイダーやクラウドプロバイダーにネットワーク構築の急進的新手法を提供し、ネットワークの拡張をネットワークのコストから切り離し、ネットワークの収益性を向上させます。

2人の成功した通信会社の起業家、Ido Susan と Hillel Kobrinsky によって設立された DriveNets ネットワーク クラウドは、標準的なホワイト ボックス上で動作するクラウドネイティブなソフトウェアとに基づく、トップレベルのオープンな分離・分散型ネットワークソリューションです。DriveNets は、2020年の Leading Light 賞でカンパニー・オブ・ザ・イヤー（未上場企業）、第21回年間 World Communications 賞でベンチャー部門イノベーション賞を受賞しています。詳細については、www.drivenets.com にアクセスいただき、当社のメディアキットをご覧ください。

1月に、DriveNets はシリーズBの資金調達において2億800万ドルとり、同社は企業評価額が10億ドル以上となったことを[発表しました](#)。投資は、サービスプロバイダーとハイパースケーラーへ、より低コストでさらに高いキャパシティーと規模でネットワーク構築を行う急進的で新たな手法の提供を継続していく製品提供をさらに開発するために使われることとなります。